

平良トチノキ観察会と植樹活動（報告）

平成 28 年 5 月 15 日(日)、京都新聞社主催、認定 NPO 法人びわ湖トラスト共催、トヨタ自動車協賛による「トチノキ観察会と植樹活動」が、「巨木と水源の郷を守る会」の協力を得て行われました。新聞広報の効果もあり、多数の希望者の中から抽選で選ばれた小学生以上の親子約 60 名の参加を得、運営サポート役のトヨタ販売店の方々約 20 名、主催者、共催者、協力者を含め総勢約 100 名が、青木先生と小松さんのご指導のもと、楽しく有意義な自然とのふれあいと理解の場を得ることができました。

午前 10 時 30 分に高島市朽木平良の平良ふれあいセンターを出発。まず栃の巨木のある山腹を目指して 45 分程の林道を登りました。途中出くわした虫や植物について「巨木と水源の郷を守る会」の青木先生のわかりやすい解説を聞きながら、急な所では息を切らせて頑張りました。筆者が足腰に注意し、汗をふきふき登るのを尻目に、小学生の子供たちは驚くほど元気に登っていました。

目指す栃ノ木はやや急な杉林の斜面に、そこだけ別世界を形成するかのように立ちはだかっていました。樹齢は推定 400～500 年、広げている枝は長さ 20～30 メートルに及ぶということで、下から見上げると大きなドームの中にいるようです。みんなで木の下で記念写真を撮りました。

キャンプ場にある美しい池のほとりでの昼食後、栃の苗木の植樹に向かいました。「巨木と水源の郷を守る会」のメンバーの方々の行き届いた準備のおかげで、大変であるはずの山中での植樹が、花壇に花を植えるような感じで行えました。改めてご尽力に感謝いたします。植樹場所の傍らに杉の木があったのですが、下部の皮が剥かれた状態で、露出された木地に丸彫彫刻刀で掘ったような 10 センチくらいの筋が何本もついていました。守る会のガイドの方の説明で、それが 2～3 日前の熊の咬み跡だとわかりました。改めて大自然の中にいることを感じました。

午後 3 時には全員無事池の畔に戻り本日の勉強会を終えました。たった 1 日の観察会でしたが、青木先生のお話やガイドの方々のサポートのおかげで、自然の動植物は大切にしなければならないものであること、大自然の中での身の守り方、山歩きの仕方など、参加者にとって身についたことが多い一日となったことと思います。主催者の実施したアンケートにもこういった感想が多くみられたとのことでした。

(理事 下村 力)

